

令和2年度第2回函館市魚類等養殖推進協議会に係る意見について

○議 事 (1) 函館市における魚類の養殖を実現するための取り組み

| 委員名 | ご 意 見 |
|--------------------------|---|
| 渡部委員 (函館市漁協) | <p>近年、天然資源の減少が続く中で、魚類等の養殖事業はこれからの管内漁業の重要な取り組みとなると思います。こうした中で、現在の漁業との組み合わせで漁家所得が向上し漁業経営が継続することと思います。</p> <p>また、今後様々な魚種についても取り組んで、他魚種との差別化を図り函館ブランドとして販売できたらと思います。</p> |
| 千葉委員 (銭亀沢漁協) | <p>今後の漁業を行っていく上で養殖魚に力を入れる事は非常に重要な取り組みだと理解はするが、水産業協同組合法の改正により国が進める企業参入を市が率先して後押しする形になり、漁業者が置き去りになる様なことがないように慎重に進めていただきたい。</p> |
| 川原委員 (戸井漁協) | <p>資源管理が強化されていく中、将来的に漁業経営を行う上で期待がもてます。今から先を考えると魚類養殖は欠かせないものであると思います。</p> <p>ただ、津軽海峡は潮が速く適した場所があるのか？</p> |
| 福澤委員 (えさん漁協) | <p>天然資源の激減を背景に国際的に資源管理が強化されており、養殖漁業が世界的な主流となっている中、国内においても各地において養殖事業への取り組みが行われており成果を上げている地域がある。</p> <p>当協議会において、国内で初の取り組みとなるキングサーモン養殖の試験研究を行うことは、様々な課題があるとは思いますが、当市管内における漁業発展に大いなる希望をもたらせると考える。</p> <p>当該養殖事業の確立を期待しているとともに、その達成に向けえさん漁協としてもできる限りの協力をいたしたいと思う。</p> |
| 中村委員 (南かやべ漁協) | <p>天然資源の不漁が続き、今後はT A Cが強化されるなど、漁業が厳しくなっていく状況の中、天然資源に依存しないこの事業への期待は大きいものがある。</p> <p>天然親魚の供給については、協力していきたい。</p> |
| 大島委員 (渡島総合振興局 水産課) | <p>魚類養殖に関する技術の確立に向けた取り組みは、生産量の減少、就業人口の減少や高齢化といった函館市の漁業が抱える課題に対応しながら、水産物の安定的な供給などを通じて関連する多様な産業との連携を強め、将来に渡り地域経済にとって重要な役割を果たしていく上で、施策としての必要性が高いものと考えます。</p> |

| 委員名 | ご意見 |
|-------------------------------|--|
| 萱場委員 (函館水産試験場) | <p>函館市が計画する「魚類の養殖を実現する取り組み」においては、養殖対象種であるマスノスケの成長や成熟等の基礎的情報を収集する研究が行われることに加えて、将来の海面養殖を想定して養殖に適する海域の探索や浮沈式生け簀の耐久性調査が計画されており、魚類完全養殖の実用化を検討する上で必要な調査研究が取り組まれると考えます。</p> <p>一方で、養殖対象とするマスノスケは北海道沿岸域に來遊することもあります。道内河川への遡上や自然養殖(再生産)はほとんど確認されていません。そのため、試験魚が流出して定着するとサクラマス等の在来種や生態系への影響も懸念されることから、海上養殖試験等における逃避防止には万全の対策を講じていただきたいと考えます。また、適正な量の給餌を行って漁場環境の保全に留意するとともに、魚病の発生や蔓延を防止する防疫措置にも配慮して取り組みを進めていただきたいと考えます。</p> |
| 吉野副会長 (函館地域産業 振興財団) | <p>希少性の高いキングサーモンの完全養殖を目指す取り組みには賛成します。</p> <p>そのうえで魚類養殖を持続的に進めるためには、「儲かる養殖」にしなければならないと思っております。漁業者が儲かることによってはじめて若者の参入が増え、担い手の減少にも歯止めがかかります。その「儲かる養殖」にするには、経済性の検討が欠かせないと考えております。</p> <p>そこで今回提案の研究内容に加えて、様々なコスト計算の下にシミュレーションを行い、どのような養殖すれば儲かるのか等、経済性の検討を行ってはいかがでしょうか。</p> <p>経済性の検討を行うことによって、「儲かる養殖」のための条件「養殖期間、生産量、販売単価等々」が明らかとなり、それを目標として取り組みを進められることとなります。</p> <p>ご検討の程、よろしく願いいたします。</p> |
| 嗟峨会長 (函館国際水産・ 海洋都市推進機構) | <p>地球規模の気候変動による海洋環境の変化や外国漁船の無秩序な操業など様々な要因から不安定な水揚状況が続いているほか、改正漁業法による資源管理の強化が見込まれているなど、漁業を取り巻く環境が大きく変化していることから、魚类等養殖を実現し、漁業経営の安定につなげるためにも必要な取り組みだと思えます。</p> <p>また、函館国際水産・海洋都市構想が目指す革新技術・新産業の創出による地域経済の活性化にも合致することから、函館国際水産・海洋都市推進機構としても、函館市と連携してこの事業に取り組んでまいりたい。</p> |